

予告

これから始まる予定の企画展や特別展の情報をお知らせします。
まもなく阪神・淡路大震災から30年、これを機にもう一度震災について考えてみませんか？



企画展「震災のポスター展」

阪神・淡路大震災の時、あらゆる場面でポスターが活躍しました。震災当時につくられたポスターから、避難生活や公的支援、復興までの道のりを振り返ってみましょう。

開催期間 令和6年12月3日（火）～令和7年5月25日（日）

開催場所 人と防災未来センター西館5階 資料室

震災資料のメッセージ「よろず相談室と災害障がい者・高齢者の声」

阪神・淡路大震災により、多くの人びとが身体と心に傷を負いました。災害障がい者・高齢者に寄り添い続けた「よろず相談室」の歩みをたどります。

開催期間 令和6年12月3日（火）～令和7年5月25日（日）

開催場所 人と防災未来センター西館3階（有料ゾーン）

特別展「1995.1.17から30年。あらためて知る阪神・淡路大震災」

「その年、その時」「震災からの30年、日本の歩み」「未来へ今、伝えること」のテーマを展示します。



兵庫津ミュージアム

開催期間 令和6年12月21日（土）～令和7年1月19日（日）

開催場所 兵庫津ミュージアム2F第1企画展示室

1995.1.17から30年。あらためて知る阪神・淡路大震災～30年を振り返り未来を展望する、30コラム展～

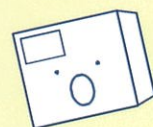
阪神・淡路大震災から30年にちなみ、防災や復興、災害伝承など全部で30のコラムテーマを展示します。

開催期間 令和6年11月1日（金）～令和7年3月30日（日）

開催場所 人と防災未来センター

震災資料をお持ちの方に

人と防災未来センターでは、現在も震災資料の収集を続けています。「こんなものでいいのかな？」と、おっしゃる方もなかにはいらっしゃいます。寄贈できるか分からないとお考えの方や、震災後、すぐには手放せなかったものの、**震災の出来事を伝えるために活用したい**とお考えの方など、悩んだ際には、**ぜひ一度、資料室までご相談ください。**



(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
DRI 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター資料室

〒651-0073 兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 人と防災未来センター西館5階

TEL 078-262-5058 FAX 078-262-5062

URL <https://www.dri.ne.jp/>

開室時間 9:30～17:30

閉室日 毎週月曜日（月曜日が祝日又は振替休日の場合は翌平日）

12月29日から1月3日



資料室は無料でご利用いただけます



阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター
The Great Hanshin-Awaji Earthquake Memorial
Disaster Reduction and Human Renovation Institute

資料室ニュース



Vol.85

2024年
11月発行

震災資料 出張中！～震災資料の様々な活用例～

人と防災未来センターでは、様々な活用ニーズに応じて震災資料を貸し出しております。

出版のために

書籍での写真資料の利用（PHP研究所）

『災害伝承の大研究』令和6年9月27日発行
伝承のかたち⑤災害遺構



神戸港震災メモリアルパーク
(429-001085)

防災フリーペーパーでの写真資料の利用

（株式会社ホームセンターアグロ）
『防災BOOK』令和6年9月配布
誰もが忘れられない阪神・淡路大震災の恐怖

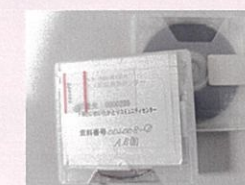


芦屋ハイタウン室内の散乱
(1200252-000004)

放送のために

報道番組での音声資料の利用（NHK神戸放送局）

「阪神・淡路大震災30年 あの日を胸に～これから～
地域の外国人へ“その国の言葉”で届ける」
「リブラブひょうご」で令和6年9月3日放送。



FMわいわい
放送音声
MD(289-002008等)
から一部使用

展示のために

博物館でのモノ資料の企画展示（国立歴史民俗博物館）

「歴史の未来一過去を伝えるひと・もの・データー」
展示期間：令和6年10月8日～12月8日
展示場所：国立歴史民俗博物館企画展示室A・B



だるまストーブ
(250-012039)

大学でのモノ資料の特別展示（神戸大学大学文書資料室）

「あの日の神戸ー記憶の継承ー：阪神・淡路大震災30年
防災パネル展」
展示期間：令和6年10月22日～令和7年2月3日
展示場所：神戸大学百年記念館1階展示ホール

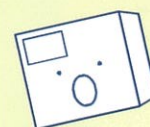


工藤さんのワープロ
(491-001001)

震災資料の利用をお考えの方に

上述のように人と防災未来センターでは、様々な活用ニーズに応じて震災資料の貸し出しを行っております。

震災資料を利用したいとお考えの方は、ぜひ一度、資料室までご相談ください。



新着資料紹介

阪神・淡路大震災の時、阪急伊丹駅の様子は？

阪急百貨店伊丹店や阪急伊丹駅、芦屋市内の被害状況が写っている写真のアルバム5冊が寄贈されました。

震災当時、寄贈者の両親が阪急伊丹駅の駅ビル内の書店（文学館伊丹ターミナル店）で働いており、店舗も大きな被害を受けました。倒壊した駅構内は立入禁止でしたが、駅ビル内に商店を構える店主たちは中に入り貴重品や商品を取り出したそうです。

寄贈者の両親が亡くなり実家（芦屋市浜風町）を売却することとなり、片づけをしたところこれらの資料が見つかったそうです。

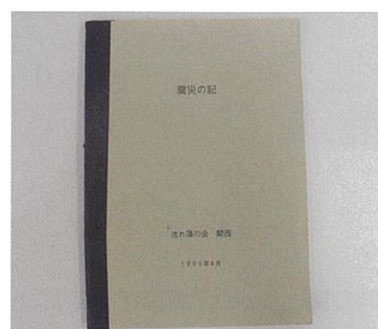


記録として残すこと

『野島断層を歩く』冊子1冊、『野島断層を歩く』ワープロ原稿と原版3枚、そして、『震災の記』冊子1冊が寄贈されました。

『野島断層を歩く』は、寄贈者とその夫が1995年1月28日に地表に露出した断層面を見に行くために、淡路島北部を散策した時の様子を記した冊子です。断層の観察以外に、調査のために淡路島に来た地震学者や地質学者、被災した住民との会話も記されています。ワープロ原稿や内容に沿った写真を張り付けた原版3枚も寄贈されました。

『震災の記』は、読書会「流れ藻の会」の会員で被災地に住む寄贈者とその友人によって、当時の経験を作文にした冊子です。「流れ藻の会」は東京女子大学出身者によって1969年から今も続く読書会です。



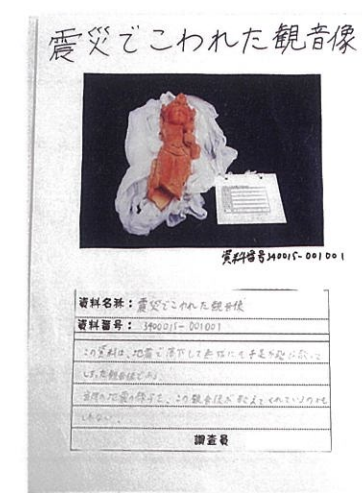
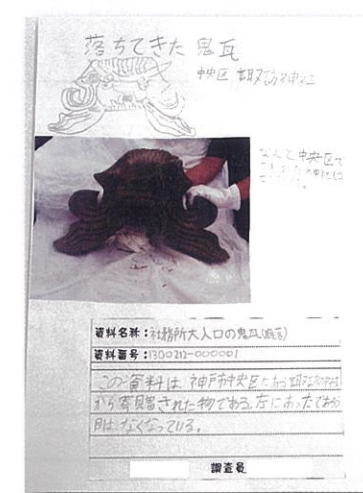
夏休み 防災 未来学校 2024

なりきり！震災資料専門員～震災資料の紹介パネルを作ってみよう！～



8月17日(土)に小学4～6年生を対象としたワークショップ「なりきり！震災資料専門員」を開催しました。今回参加した6名が、資料保存にかかわる震災資料専門員の仕事を体験し、人と防災未来センターが所蔵する震災資料を使って、資料調査・資料の紹介パネルづくりに挑戦しました。角度や見せ方にこだわって撮影した資料の写真や、オリジナルキャプションを使ってパネルを作成しました。

また、普段は入れない収蔵庫で資料探しゲームも楽しみました。



震災ビデオ変換ラボ 開設中！

ご自身・ご家族の撮影した震災記録ホームビデオ（磁気テープ）※は、資料室内に設置した機器を使用して、ビデオファイルやDVD等へ変換できます（利用条件あり・要予約）。※テレビ放送の録画や販売パッケージの複製にはご利用いただけません。



詳細は <https://www.dri.ne.jp/material/about/donation/video-lab/>

▲ 利用案内